

コールセンター Q&A

Q98

アンモニアの検体を提出するときに注意することはありますか？

A98

提出の際は、以下の2点にご注意ください。

1. 除蛋白液入りのアンモニア検査用専用容器⑮に血液を1.0mL 加えます。

基準線より検体量が多い場合は測定値が高く、少ない場合は測定値が低く出ますので容器上部の基準線を目安に採血をお願いします。【写真・赤矢印が基準線】



2. 採血後、すぐに氷水中に浸して、提出します。

検体を室温に放置すると、赤血球からのアンモニア遊離や、蛋白・アミノ酸からのアンモニア生成により測定値が上昇します。

本来、アンモニア検体は、採血後除蛋白液と混合後、『速やかに遠心分離』して上清を分離するのが理想とされていますが、検査センターにご依頼の場合は、『速やかに遠心分離』が難しいため、上記の点に留意していただきますよう、お願いします。

お問い合わせ：☎代表 0120-14-7191(フリーダイヤル) / 担当 生化・免疫係

*ウェブページでもご覧いただけます。 <http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>



きやつちボール

当検査センターでは、シフトの工夫や業務の見直しを行い、残業時間の削減に取り組んでいます。平成29年度の残業時間は、前年比65.6%、平成30年度12月までの残業時間は、前年比74.2%まで削減しました。

最近、残業のメカニズムという記事を読み、なるほどと思いました。残業は、①職場内の同調圧力による「感染」、②残業代への「依存」、③デキる者への「集中」、④長時間労働による「麻痺」、⑤上司からの「遺伝」、から起きるそうです。明日からどう働くか、どう働いてもらうのか？平成31年度からは、年5日の有休取得も義務化されます。

「24時間戦えますか♪」というフレーズが流れていたのは、はるか昔のことのようです。

白石 淑子 (総務経理課課長)

<広報委員> 谷敷 圭美 / 柘本 健 / 藤井 ひとみ / 三宅 康雄 / 加藤 与旨多 / 藤本 彩咲日